

＜憲法記念日を祝う集い 2015年5月9日 クラッセ川越＞

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件を知っていますか？」

＝特定秘密保護法の問題点を考える＝

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会

代表 山野井孝有

暴走する安倍政権を国民の力で打倒しよう！

1、はじめに

軍靴の響きがすぐ後ろに迫っています。安倍政権は5月中旬にも「戦争立法」の法案を提出しようとしています。事態は緊迫しています。

2013年12月の「特定秘密保護法」の強行採決、さらに2014年7月には集団的自衛権行使容認「閣議決定」。その間にも「武器輸出三原則」の緩和等々、安倍政権は日本を「戦争をしない国から」「戦争をする国」へと大転換させるために暴走しています。

いま、かつての戦争を体験した最後の世代である80歳代の方々が立ちあがっています。俳優・菅原文太さんは沖縄で「二度と戦争を繰り返してはならない」と叫びました。そして沖縄では辺野古基地建設反対を掲げた翁長雄志知事を選出し、衆議院選挙では、翁長知事と同じ立場の候補全員が当選し自民党候補を蹴落しました。宝田明さんはNHKテレビで司会者の妨害を退けて平和を訴えました。

天皇皇后両陛下はパラオ共和国を訪問して、日米両国の戦争犠牲者を弔いました。両陛下はこれまで、戦後50年で沖縄を、同60年にはサイパンを訪れ、そして折にふれ憲法の大切さを話しています。自民党の中でも野中、古賀、河野の各氏が戦争へ暴走する安倍総理の動きに異議を唱えています。

戦後70年、戦争を経験した人達が今動き出しました。私も83歳です。残された時間は、戦争の悲惨さを語り、平和を守るために安倍内閣の戦争への暴走をストップするために、両手を大きく広げて立ちほだかりたいと決意しています。

2、北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相

1) これで懲役15年——残酷な軍機保護法弾圧 (資料①②③参照)

- ・北海道帝国大学生・宮澤弘幸は、1941年12月8日の太平洋戦争開戦日に特高に検挙され、大審院（現・最高裁）で懲役15年の重刑が確定し網走刑務所に収監された。戦後1945年10月10日釈放されたが、獄中で衰弱し切っていたため、1947年2月

22日、27歳で事実上、獄死した。

- ・宮澤弘幸は何故スパイとされたか。その一つが、北海道旅行で知った根室に海軍飛行場があることを北大外国人教員のレーン夫妻に話したことだとされた。だが、その海軍根室飛行場は、朝日新聞、東京日日新聞で大きく掲載され、絵葉書にも載り、さらにアメリカ大使館海軍武官の視察まで許可していた。裁判記録によれば、天下公然の事実であっても、軍が「秘密」と言えば、全て「秘密」とされた。
- ・特高は、宮澤弘幸に「スパイ」を認めさせようと、逆さ吊り・蟹鉋など、拷問を繰り返した。「宮澤の拷問死」を心配した弁護士は検察の訴因を一部認めるよう、説得したが、宮澤は断固拒否し続けた。そして懲役15年の重刑で零下20度の網走刑務所に閉じ込められた。

2) 北大生・宮澤弘幸は人間としてまっとうに生きた

- ・「スパイ」とされた宮澤弘幸はどんな学生だったか。中国への侵略戦争が泥沼化していった1939年、北海道帝国大学で教えていた外国人教官と学生たちは、「心の会」を結成して、人間的なふれあいと国際交流を活発に展開していた。戦時下であっても、人種、国籍を越えてイタリア語のフォスコ・マライーニ、英語のレーン夫妻、ドイツ語のヘルマン・ヘッカー、英語のレーン夫妻、フランス語の太黒マティルド夫人と学生たちは、北大構内にある外国人教官官舎に集まり、ベートーベンを聴きコーヒーを飲みながら人間社会に関する問題を自由に話し合った。宮澤は自分の旅行の話をした。
- ・当時の政府・軍部は、国民に対して「外国人を見たらスパイと思え」と、大宣伝し、特高は外国人と接する学生や国民を徹底的に監視していた。特高は、レーン夫妻が住む官舎の前にアジトを設けて、宮澤ら学生たちを監視していた。北大内には、学生主事と称する学生の思想動向を監視する官憲が常駐していた。
- ・宮澤弘幸は、何でも見てやろう、聴いてやろう、体験しようとする積極的な学生だった。マライーニと冬山に登り、陸海軍の軍事訓練にも積極的に参加した。満州旅行の感想など、自分が体験したこと、感じたままを積極的に発表していた。大学卒業後は海軍技術将校になることを恋人に話していた。そんな愛国心旺盛な青年だった。

3) 家族の苦しみ73年 (資料④⑤⑥参照)

- ・宮澤弘幸は懲役15年（この刑はゾルゲ事件に次ぐ重い刑）で、極寒の網走に閉じ込められた。網走での厳しさは今の私たちの冷暖房完備の生活からは考えられない。当時一般の国民の食事でも満足でない時代にスパイ＝「国賊」として投獄されているものに食わず食糧はかなり厳しかった。終戦で釈放された宮澤弘幸は栄養失調で骨と皮になっていたと家族は語った。そして宮澤弘幸は「北海道のことは必ず書く」と言っていたが果たせず、27歳で亡くなった。
- ・宮澤弘幸の妹・秋間美江子さんは語る。

一番苦しかったのは兄・弘幸よりも母だと思う。刑が確定する前はお金を払えば軽くなると言われて東京九段の弁護士に多額のお金を渡し、月一回、わずか5分の

面会のために東京から網走まで通った。その時も監視に“つけ届、すると待遇が良くなる”と言われ、網走に行く時には日本酒など持参した。スパイの家族の負い目がある宮澤家は何回も引越をし、母は「国防婦人会」の活動にも積極的に参加した。

- ・美江子の兄で宮澤弘幸の弟・晃の事も忘れられないと語る。

1943年（昭和18年）10月21日、明治神宮外苑の球場で、時の東條英機首相が閲兵した学徒出陣壮行会が行われた。前日の朝日新聞は「応大学生経済学部一年宮澤晃が壮行の辞をのべる」と掲載した。宮澤家では「スパイの家族」として肩身の狭い思いをしていたので、事のほか喜んだ。しかし当日になって兄がスパイとして網走刑務所にいることが分かり急遽替えられた。

その後、晃は後海軍航空隊に入り、長崎原爆投下後の長崎上空で調査飛行を繰り返した。戦後は商社に入ったが白血病で亡くなった。長崎での調査で被曝したと考えられている。

- ・そしてコロラド州ボルダーに住む美江子は今年88歳。この74年間、スパイの家族として悲しい苦しい思いをして生きて来た。

4) 引き裂かれた青春

宮澤弘幸が特高警察に検挙された時22歳。この時宮澤には17歳の恋人・高橋あや子が居た。二人は宮澤が大学を卒業し海軍の技術将校になったときに結婚する約束をしていた。戦後、高橋家では宮澤家を探したが、スパイの家族として家を転々としそし空襲で焼かれたため見当たらず、宮澤は27歳で亡くなり、生涯独身を通した高橋あや子は89歳で亡くなった。

5) 命がけの来日「がんより怖い今の政治」二度と繰り返してはならない戦争！

1986年に自民党が「国家秘密法」上程しようとした時、秋間美江子さんは「私たち家族の悲しみと苦しみを二度と繰り返してはならない！」と訴えるため、わずか5分間の発言時間であってもアメリカから来日した。その後も来日した秋間美江子さんは全国を回り訴えた。そして「国家秘密法」を再度上程させる企みを阻止するために貢献した。

昨年（2014年）2月22日、宮澤弘幸の命日に開かれた「宮澤弘幸追悼集会」に参加するため、その前日、ボルダーから15時間のフライトで来日した。この集会の後の記者会見で美江子さんは「私は5回、がんの手術をした。怖いのはがんよりも今の政治です」と語った。

美江子さんは、日本を離れる時、成田空港でNHKのマイクに向かって「あの戦争について天皇が国民に謝罪していないのだから、北大が謝らないのはしょうがないのかなあ？」とひといい残して日本を離れた。

ボルダーに戻った秋間美江子さんは、昨年の12月8日に札幌で開かれた集会に是非参加したいと言っていましたが、入退院を繰り返し来日できませんでした。今年の兄・弘幸の命日に開かれた集会も体調を崩し、来日出来ませんでした。88歳の秋間美江子さん

の来日はだんだんと難しくなっています。

集会に次のようなメッセージを寄せました。

国民独りひとりが大切に守らなければならない（憲法）九条が今、崩されそうな時代がくるのではないかと、私は悲しく、じたばたしています。そうしていても本当に私独りの力ではどうにもならないのです。

私の大好きな国日本。私は日本人です。国を愛し、同胞の一人一人を愛しています。もうもう戦争はいや、一人一人のいざこざもきらい。どうぞみんな本当に平和な毎日がおくられるように、この国を作ってください。

6) 北海道大学の責任と謝罪要求 (別紙「心の会の碑」(仮称) 建立呼びかけ参照)

- ・1941年12月8日に、宮澤弘幸が検挙された時、母親・とくさんは、急きょ札幌に行き、当時の今・北海道帝国大学総長の自宅を訪ねて「あなたの大学の学生が検挙されたのだ。すぐに調べてください。取り戻してください」と訴えたが、総長は何もしなかった。
- ・戦後、北大はレーン夫妻を再び大学に招いて教員として採用し、同夫妻は戦前と同様に学生たちを教え、札幌で亡くなった。
- ・しかし宮澤弘幸については、何の調査もしなかった。無視していた。北大正史『創基80年誌』(1965年)、『百年史』(1980-82年)のいずれにもレーン夫妻の強制送還については触れているが、宮澤事件については何の記述もない。
- ・1980年代に入って、自由民主党が画策している国家秘密法制定に反対する運動が盛り上がった。宮澤弘幸の妹・秋間美江子さんの夫・浩さんは『戦争と国家秘密法』を読んで、著者の上田誠吉弁護士に、妻の兄・宮澤弘幸がスパイ冤罪被害者であることを知らせ、調査を依頼した。
- ・これを受けた上田弁護士は徹底調査を進め、1987年に『ある北大生の受難—国家秘密法の爪痕』を出版した。1993年にはビデオ『レーン・宮澤事件—もうひとつの12月8日』が制作された。こうした社会的な運動の中で、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」が広く知られるようになり、北大は2001年の『北大の125年』で冤罪の事実と宮澤弘幸の名を北大史の中に記載したが、それはわずか十数行だった。
- ・2010年になって『調査報告=宮澤弘幸・レーン夫妻軍機保護法違反冤罪事件再考—北海道大学所蔵史料を中心に—』(北海道大学大学文書館年報・第5号、2010年3月刊)が発表された。しかしながらこれは、大学文書館長が一学究として調査・発表した形をとったもので、北大当局としては腰の引けたものであった。
- ・2014年5月、北大は宮澤弘幸が冤罪であったことを公式に認め、宮澤弘幸を顕彰するために、語学成績が優秀な学生に「宮澤賞」を創設すると発表。秋間美江子さんと「真相を広める会」は承諾した。
- ・現在、2人の元北大総長を含む6人が、北海道大学に対して、「心の会の碑」(仮称) 建立運動を呼びかけ、北大に建碑敷地の提供を求めている。この運動には、北大OBと一般市民ら約500人が賛同している。(別紙「建碑呼びかけ」参照)

7) 「秘密保護法」は「軍機保護法」を上回る国民弾圧法規だ (資料⑤⑧参照)

◆秘密保護は戦争の露払い

宮澤弘幸が弾圧された根拠となった「軍機保護法」は、元々は1899年7月15日公布の古い法律で8カ条の簡単なものだった。それを日中戦争が泥沼化していく1937年8月に大改正した。軍機の決定権者を陸海軍大臣と明記し、刑罰を死刑に広げ、対象を「故意」「偶然」から「過失」にまで広げ、「外国若しくは外国の為に行動する者」とスパイ法としての性格を強めた。

軍機保護法が大改正された4年後、軍部は太平洋戦争を引き起こし、開戦当日の1941年12月8日、宮澤弘幸は検挙されたのだ。この経過を見れば、戦争を引き起こす前には、国民の目・耳・行動を押さえつける法律が制定される。逆に言えば、秘密保護が拡大された後には、必ず戦争が待っているのだ、2013年12月に強行可決された秘密保護法は、あれこれ口実をつけても、その本質は戦争のための弾圧法規である。平和な社会には秘密は無用だ。軍靴の響きがすぐ後ろにきていると言って間違いはない。

◆付帯決議は意味なし

軍機保護法制定の議会では、軍事上の秘密とは知らずに知ってしまった国民を冤罪から守るための議論があった。そして「軍事上の秘密とは不法な手段でなければ探知収集できない高度な秘密であって、それを知って侵害した者にのみ適用する」との付帯決議をつけて成立した。しかしこんな付帯決議は何の意味もなかったことが、宮澤弘幸への弾圧が証明している。当時の誰もが知っている根室に海軍飛行場があったことを外国人教員に話したのが軍機保護法違反とされたのだ。

◆秘密保護法は断固廃止させなければならない

安倍首相は2014年12月の衆議院解散の直前、テレビ番組で「特定秘密(保護)法は、工作人員とかテロリスト、スパイを相手にしていますから、国民は全く基本的に関係ないんですよ。報道が抑圧される例があったら、私は辞めますよ」と言った。宮澤・スパイ冤罪事件は、こんな言葉は全く信用できないことを証明している。

秘密保護法は2014年12月10日に施行された。この日の毎日新聞は「息苦しい社会にするな」、朝日新聞は「『不特定』の危うさ」、東京新聞は「権力が暴走しないか」等々、社説で軍機保護法の下で国民が弾圧されたことが起こりえない保障は何一つないことを主張した。そして毎日新聞はその危惧を①監視機関には弱い権限しかない②「防衛」「外交」「特定有害活動(スパイ活動など)」「テロ防止」の4分野の秘密指定の範囲があいまい③内部通報者の保護不十分④国会の審査は強制力がない——など、重要な問題点を指摘した。

秘密保護法は防衛・外交などの秘密を保護することだけでなく、国民を弾圧する武器であることが大きな特徴だ。清水雅彦・日体大教授は「今回の秘密保護法が80年代と違うのは、警察が関与していることです。つまり『軍事と治安の融合化』(軍隊の警察化と警察の軍隊化)が進んでいます」と強調している。

秘密保護法を許す限り、第二、第三の宮澤弘幸のようなスパイ冤罪事件が必ず引き起こされるのだ。何としても、秘密保護法は廃止させなければならない。

3、二度と戦争はごめんだ！——私の戦争体験から (資料⑦参照)

<戦前の私>

1932 (昭和 7) 年 2 月 22 日生。83 歳、東京 (下町生まれ)

1940 年 (昭和 15 年) 太平洋戦争開戦 1 年前、小学校 4 年の時、西住戦車隊長の映画を見て少年戦車兵にあこがれた。その後も映画「加藤隼戦闘隊」を映画館で観た。私と同様に多くの若者が航空兵にあこがれた。

<当時の日本は、あの国 (北朝鮮) の現在のようにだった>

北朝鮮は「恐ろしい国だ」と感じる人は多い。だが私は知ってほしい。かつての日本は、次のようなスローガンのもとで、国民を戦争へと駆り立て、多くの国を敵に回し、朝鮮はじめアジア諸国の人達を虐待してきたことを！！。

「欲しがりません勝つまでは」

「正しき血から強い民族」

「パーマネントはやめませう」

「進め 1 億火の玉」

「見えざる敵を防げ」

「鬼畜米英を撃て」

「世界の敵だ白旗たてても許すな米英」

「最後には神風吹いて勝つ日本」

「産めよ増やせよお国のために」

「産んで殖 (ふやす) して育てて皇楯 (みたて)」

「初湯から御楯をと願う母の思い」

「忠君愛国」

——子供を産むのも天皇の兵隊にするためなのだ

——天皇陛下のためにこの命を捧げるのだ。

国民の目、耳、口を封じ、戦争へ、戦争へと国民を駆り立てた。そんな時代に私は生きた。

<けじめをつけない日本>

○東京大空襲

1945 年 3 月 10 日の東京大空襲では、10 万人が死に、100 万人の家族の家が焼けた。これはアメリカの「焼き殺し大作戦」と言われた。東京だけでなく主都市が焼かれこの作戦だけで 50 万人が焼け死んだ。



これを計画し指揮した米軍のカーチス・ルメイ少将は「大きな成果を収めた」と元帥に昇進した。東京大空襲から 19 年後の 1964（昭和 39 年）年、日本政府はルメイ元帥に「航空自衛隊の育成に貢献した」として勲 1 等旭日大綬章を与えた。この時の防衛庁長官は小泉純一郎首相の父親・小泉純也だ。



浅草・言問橋の橋柱。石の黒い部分は焼死した人間の油と言われている

○戦争犯罪人が戦後の政治にかかわった

安倍晋三総理の祖父・岸信介はA級戦犯とされたが、起訴を免れたのち総理に。そしてA級戦犯を祀っている靖国神社に多くの国会議員が参拝している。「あの戦争は間違っていない」という思いがあるのではないか。同じ敗戦国でもドイツは戦争犯罪人には時効はないと今も地球の裏側まで追っている。

日本は連合国による戦犯裁判は行われたが 330 万人のいのちを奪った戦争指導者に対する日本人による戦争犯罪追及は行われていない。

麻生太郎財務大臣（元総理）の父親は炭坑主で多くの朝鮮人を奴隷のように強制労働させ死亡させた。また過酷な労働のため麻生炭鉱では数千人の脱走者が出た。

今、拉致問題が政治の重要課題となっている。拉致は断じて許せない。しかしかつて日本は多くの朝鮮人を“拉致”して強制労働させたことを忘れてはならない。もちろん従軍慰安婦問題も含め「けじめ」がつけられていない。

○原発事故のけじめ

福島原発事故も多くの住民が家を追われている。今も放射能を含んだ水は垂れ流しだ。廃炉の道はこれから 50 年？ 100 年？ この「けじめ」をつけていない中で、安倍総理は原発再稼働を企て、原発を海外に売り歩いている。小淵優子元経済産業大臣は「今の日本には原発は必要だ」と発言している。「小淵優子よ、自分の子供をあの福島で生活させてから言ってほしい」。「小淵優子よ、あなたの父親がお世話になった秋間美江子さんはスパイの家族として 73 年間苦しんだ」と教えてやりたい。

<「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を広める活動とマスコミの対応>

○28 年前との違い

- ・2013 年秋、自民党が秘密保護法制定を策動していることを知った北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞、共同通信、地方紙の多くとしんぶん赤旗は、宮澤事件を積

極的に報道した。しかし読売新聞、産経新聞は一行も書かなかった。

- ・安倍政権はマスコミを封じ込めようとしている。経営委員、会長人事で、NHKを屈服させている。NHKより問題なのは、積極的に安倍暴走政権を支えている読売新聞と産経新聞だ。権力を監視し、批判しない新聞はジャーナリズムではない。「御用新聞」だ。日本を再び戦争への道に進めさせないために、マスコミが果たすべき責任は極めて大きい。
- ・頑張っているマスコミを応援しよう。良い記事には新聞社やテレビ局に「良かった」と電話をしよう。
- ・新聞社と公明党、創価学会の関係——新聞印刷。
- ・大企業（広告）と新聞
- ・「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」について、NHKテレビは特集番組を制作した。しかし民間放送テレビは取材の問合せはあったが、実際には何も報道しなかった。

＜戦争を始めるのもジャーナリスト、戦争を止めるのもジャーナリスト＞

ベトナム戦争に対して、はじめ、全米は「正義の戦争」と信じ、「勝利を確信していた」。これは政府とジャーナリストが一体になって「正義の戦争」であることをアピールしていたからだ。ベトナムに従軍していたジャーナリストたちもまた「正義」を信じて政府と軍の発表を報道していた。しかし政府と軍の発表と戦場のあまりにも違いに疑問を持った3人のジャーナリストが、ベトナム戦争の真実は何かを追い始めた。それは3人のジャーナリストの命を掛けた報道だった。

ベトナム戦争への支持率は、次のように変化した。

	1965年	1966年	1969年
賛成	65%	48%	32%
反対	21%	35%	58%

国防省の「機密文書」を入手した記者はニューヨーク・タイムズの経営者が機密文書の掲載を躊躇した時、「この文書はニクソンのためではない血を流した代償を払ったアメリカ国民とインドシナの人々のものだ」と経営者に迫った。そして機密文書はニューヨーク・タイムズの一面を飾った。大統領はニューヨーク・タイムズに連載の中止を求めたのに対して、ニューヨーク・タイムズは紙面で「大統領の掲載中止要請を拒否する」と発表した。

真実の報道をする3人のジャーナリストに対して大統領は「青二歳の真似をするな、彼等は祖国の裏切り者だ」と記者会見で激怒した。そしてニューヨークタイムズの記事差し止めを連邦裁判所に提訴した。国防総省の機密文書を暴いた報道は連邦最高裁で争われた。政府は「国家のための機密文書だ」と主張。ニューヨーク・タイムズは「この資料は血を流して支払ったアメリカ国民とインドシナ人民のものだ」さらに「真実を伝える事が国家のためだ」と主張した。

連邦最高裁判所は「報道機関は政府に奉仕するのではなく国民に奉仕するものである」と大統領の差し止めを却下した。

1973年3月20日、120万人の死者を出したベトナム戦争は終わった。

アメリカ大統領として戦争の負けを決断したニクソンはのちに次のように語った。「こ

の国がうまくいくかどうかは真実を広めるメディアにかかっている。その真実に基づいて民主主義の決定がなされるかだ。アメリカの報道機関は真実を知らせる自由と誠実さ、そして責任を決して妥協することなく保たねばならない。」

真実を国民に伝えるためにどんな圧力にも屈せず闘ったジャーナリストの 1 人ニール・シーハンは「政府の政策に国民が迷っている時、権力はジャーナリストを排除したがるが、ジャーナリストは戦い続けなければならない。いつでも成功するとは限らないが戦わなければ成功しない」……。このベトナム戦争でのジャーナリストと経営者、そして大統領さらに司法の独立はこれからの私達に大事な教訓となる。

戦後新聞は戦争を反省し戦争のために「ペンは握らない」「シャッターは押さない」「輪転機は廻さない」と誓って・・・忘れてはならない

<「戦争を始めるのも人間、戦争を止めるのも人間」>

「私は戦争を止める人間になりたい」——。家族を東京大空襲で失った「ガラスのうさぎ」の著者・高木敏子さんは私の家で語ったこの言葉を忘れない。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は、決して過去の話ではない。秘密保護法が施行されれば、再びこれと同じような事件が必ず引き起こされる。

「真相を広める会」は、秘密保護法を廃止させ、安倍暴走政権を打倒するために、引き続き全力で取り組んでいく。一人でも多くの方々に「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を広め、戦争反対の運動を進めて行く。

<私の足跡>

1932年2月22日 東京生まれ.高等小学校1年2学期から軍需工場に動員され、学校でなく軍需工場に通いゼロ戦の部品を作っていた。

1945年 長野県霧ヶ峰高原で行われたグライダーに爆弾を積んで敵艦に突入する訓練に志願して参加。そして8月15日、敗戦。

1946年 高等小学校卒業後、自転車工場に就職、14歳で労働組合結成に参加。

1950年、朝鮮戦争が始まると米軍戦車の部品作りに変わり会社は「特需景気」沸いた。

「朝鮮戦争反対」を叫びながら米軍の戦車の部品を作った。当時、「朝鮮戦争反対」を叫ぶと政令311号違反で逮捕された。「朝鮮戦争反対」のビラを配り警察に追われた。

1951年 朝鮮戦争が終わり自転車作りに切り替わったが経営は悪化。

1952年5月1日 第23回メーデー（血のメーデー）参加、会社は偽装倒産で解雇。

1952年10月 毎日新聞入社（印刷局）。入社半年後に労働組合青年部委員に就任。

1956年 入社4年目で毎日新聞労働組合の大会代議員。東京本社大会議室で開かれた組合大会で内閣総理大臣・安倍晋三の父親で当時毎日新聞社政治部記者の安倍晋太郎と対決した。私は「私の職場は、夏は40度にもなります。塩をなめながら働いています。作業着を洗う石鹼もほしいです」と発言した。これに対して安倍晋太郎は「私たちは

一流大学を卒業し難関を突破して入社した。この背広も自分の金で買った。食事も外食だ。現業の人達は、作業着は会社支給、食事も社員食堂だ。新聞社は新聞記者でもっているのだ」と発言。私と安倍晋太郎は激しく対立した。そこに一人の男がやってきた「山野井君、あの男は政治家を目指している。いずれやめる男だ。ここはこらえてくれ」こう言ったのは安倍晋太郎と同じ政治部記者・海江田四郎——民主党の前代表・海江田万里の父親だ。安倍晋太郎はその年の12月、毎日新聞を退社した。その後、総理目前で外務大臣を最後に亡くなった。安倍晋三は親父の思いをかなえるとばかりに総理になった。弱い者いじめの政策をゴリ押しする姿は、父親・晋太郎とまったく同じだ。対決しない海江田万里もまた父親のDNAを受け継いでいるのか。

1957年 毎日新聞労働組合東京支部副書記長（専従）に。

1962年 安保闘争後、労働組合運動の高揚に危機感を抱いた会社は、労働組合の役員選挙に介入。この年の労組役員改選では、会社の押す候補と争って落された。私たちの対立候補は当時政治部記者で、のちに政治評論家として安倍晋三総理誕生に大きな役割を果たした三宅久之だった。何か因縁を感じる。

1970年 毎日新聞労組本部書記長就任。以後4期努めて労組役員を退く。その後毎日新聞再建闘争の中で印刷課長、印刷部長として、会社の差別分断政策でずたずたになった職場の人間関係の修復に努力した。

1985年 長男・山野井泰史がロッキー山脈で岩登り中に落下して大けがをし、ボルダアの病院に搬送された。そこでボランティアをしていた秋間美江子さんが通訳として日本の私に電話をかけてきた。以後、秋間さんとの家族ぐるみのお付き合いが続く。その過程で、秋間さんが「スパイ」とされた宮澤弘幸の妹であることを知り、今日まで、「宮澤弘幸・スパイ冤罪事件」の真相を糾明する活動を継続している。

1987年 毎日新聞社定年退職。定年後は会社から再就職をあっせんされず。友人の紹介で居酒屋グループの名ばかりの部長となり、駅前のピラ配り、皿洗いを2年間続けた。その後、年商12億円、負債5億円の倒産寸前の飲食店グループの雇われ社長として再建を任せられ2年で再建し社長を退任。

1992年 保険会社の自動車事故テレホンセンターのアルバイト。ここで全員（25人）解雇の会社提案に反対して労働組合を結成し、解雇撤回を勝ち取る。平均年齢65歳の組合結成でマスコミにも注目された。

2013年 「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」代表となる。

2015年 83歳となった。残された時間、「私の戦争体験」を伝えて行きたい。

二度と戦争を起こさせないために——。

働くものが主人公となる世の中を願いながら——。